

田沼の政治と寛政の改革

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

田沼意次と松平定信は、幕府の政治をどのように立て直そうとしただろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 田沼意次の政治

商業を生かす政治

ためまおきつ
田沼意次

18世紀後半の老中。商業の力で財政を立て直そうとした。

いんばぬま
印旛沼

江戸の東にある沼。田沼が干拓を始めた。

てんめいのききん
天明のききん

1780年代に起こった大きな飢饉。

18世紀後半、老中の**田沼意次**は、年貢だけにたよらず、商業の力を生かして幕府の財政を立て直そうとした。商人に**株仲間**をつくることを認めて営業税を納めさせ、長崎貿易では銅や**倭物**（海産物の干物）の輸出をふやして、金・銀を手に入れようとした。また、**印旛沼**の干拓を始め、蝦夷地の開発やロシアとの交易も計画して調査を行わせた。

商業がさかんになり町人の力が強まる一方で、役人の間では地位を求めてわいろを贈る者がふえ、田沼の政治は批判を受けた。1780年代には冷害や浅間山の噴火が重なって**天明のききん**が起り、多くの人が飢え死にした。米の値段が上がって各地で百姓一揆や打ちこわしが起り、田沼は老中をやめさせられた。

2 寛政の改革

引きしめる政治

まつだいらさだのぶ
松平定信

吉宗の孫で、寛政の改革を行った老中。

しょうへいざかがくもんじょ
昌平坂学問所

江戸の湯島にあった幕府の学校。

かこいまい
囲米

ききんに備えて、大名に米をたくわえさせたこと。

田沼のあとに老中となった**松平定信**は、祖父の吉宗の政治を手本に**寛政の改革**を行った。武士や町人に厳しい倹約を命じ、生活に苦しむ旗本・御家人の借金を帳消しにした。また、**昌平坂学問所**では**朱子学**以外の学問を教えることを禁じ、政治を批判する出版も取りしめ、武士には学問と武芸にはげむよう求めた。

農村を立て直すため、江戸に出てきた農民を村へ帰らせ、ききんに備えて大名に米をたくわえさせる**囲米**を命じた。しかし、厳しい取りしめりは武士や町人の反発をまねき、定信は6年ほどで老中をやめた。「白河の清きに魚のすみかねて もとのにごりの田沼恋しき」という狂歌は、白河藩主だった定信の政治の厳しさを皮肉ったものである。

人物	政治の特色	おもな政策
徳川吉宗 (前の単元)	享保の改革で財政を立て直す	上げ米・公事方御定書・目安箱
田沼意次	商業の力を生かして財政を立て直す	株仲間を認める・長崎貿易・印旛沼の干拓
松平定信	寛政の改革で引きしめる	倹約・朱子学以外の学問を禁じる・囲米

問いへの答え

田沼意次は、株仲間を認めて営業税を取り、長崎貿易をさかんにするなど、商業の力を生かして財政を立て直そうとした。しかし、わいろへの批判や天明のききんで老中をやめさせられた。かわった松平定信は寛政の改革を行い、倹約や朱子学の重視、囲米などで政治を引きしめたが、厳しすぎて反発をまねいた。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

